

道守 初の現場見学会

佐世保国道維持出張所・オリエンタル白石(株)

橋梁新設現場をメンテナンスの観点で見学



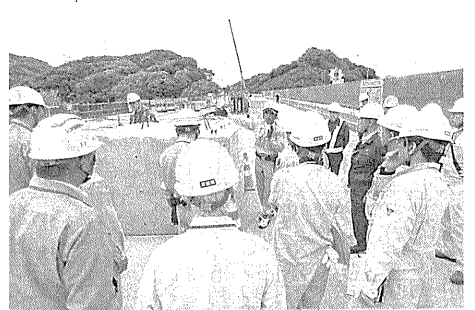
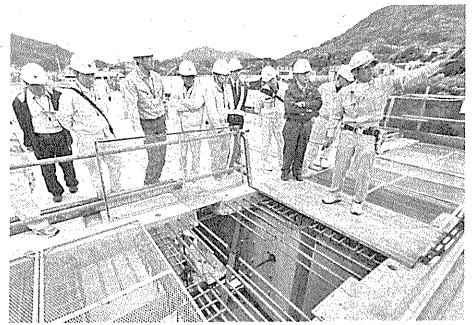
寺岡所長

長崎大学のインフラ長寿命化センターが養成する『道守』を対象とした初の現場見学会が21日、佐世保市の国道205号・深谷橋ランプ橋上部工事現場で行われた。道守講座

認定者(道守・特定道守、道守補)36人と、長崎大学の引率者3人の計39人が参加。予定時間をオーバーするほど質問・意見が交わされるなど、初の試みは成功に終わった。センターでは、今後も見学会を継続していきたいと考えた。

見学会冒頭、発注者を代表してあいさつした九州地方整備局佐世保国道維持出張所の寺岡岳彦所長は、橋梁点検などの際に、新築の設計段階から維持メンテナンスの観点が必要との声をよく聞くとのエピソードを紹介した上で、「橋梁新設の現場をメンテナンスの観点から見てもらい、今後の参考にしてほしい」と期待した。

見学会の前半は、現場事務所内で施工者のオリエンタル白石(株)の担当者が、PC(プレ



▲架設後の主桁上での現場見学

ストレストコンクリート)橋の概念・歴史・実績や、深谷橋ランプ橋工事の概要(製作、架設)を説明。さらに、道路の維持管理を担う『道守』を意識し、PC構造物点検時の着眼ポイントや、PC橋の過去の不具合事例、事例を踏まえた現在のPC橋の改善点なども紹介した。

この現場では、5分割で工場製作した主桁を現地で接合し、PCケーブルで緊張して一体化(主桁1本約120t)。その後、組立架設桁架設工法、今後

の作業の流れなどについて質問していた。現場事務所に戻ってから、PC橋のメリット・デメリットや、落橋防止装置の必要性など、専門的な質問や指摘が出た。

最後に、道守の郡家光徳氏(株上滝)が、「建設業に長年携わっていても、橋梁の上部工はなかなか経験できない。施工中の橋梁を見るのができたことで、点検時に注意して確認すべき点も分かった」と講評し、見学の機会が設けられたことに感謝した。

参加者に対するアンケートでも、回答者の全員が今回の見学会を「大変有意義」または「

「有意義」と回答。どのよつに作られたかが分かる、弱点部が判りやすい」など、新設の説明・見学が維持管理の際に役立つと感じた参加者が多かったようだ。